★開催の趣旨

　こども食堂が全国的に増えている背景には、こどもの貧困が言われています。が、経済的貧困と同じく、地域の中での繋がりも年々乏しくなっています。更にここ数年、コロナが輪をかけて人と会う機会を減らしていることに、地域の力が弱まらないか、孤独がために苦しむ人はいないだろうかと、気になっていました。
子どもがつらいのは、その親もきっと大変な状況かもしれない。地域にそれを助けたり頼れたりする関係がなければ、大人も子どももしんどいのでは。
私自身、知らない土地での子育てでしんどいときに、周りに助けてもらい乗り越えた経験から、もっと気楽に触れ合う関係が大人も子どもも作れないだろうか。
まずは知り合う場所があれば、顔見知りになれば挨拶だってできるのに。
それなら、近くの方が顔を合わせられる機会や場所を作ればいいのでは…とコロナ前から思っていました。

　なかなか収まらないコロナに見切りをつけ、昨年から準備を始め、『おもかげ ちいき食堂運営委員会』を立ち上げ、今年の 6 月に面影地区で『ちいき食堂』を始めた次第です。子どもだけでなく、子どもと地域の大人、そして地域の大人同士、が出会える場所にしたく、子ども食堂ではなく、地域食堂としました。また、貧困対策がメインではなく、同じ地区に住むもの同士、繋がることが第一の目的でもあります。そして、地区公民館で行うのではなく、町区をメインの会場にして、順繰りにキャラバン的に回ります。場所を固定してしまうと、参加者も固定してしまいがちです。また、面影は広いので足がない方はなかなか来る事ができません。
子どもも、高齢者も、自分で歩いて行ける範囲で開催することで、身近な場所なら誰もが来やすくないだろうかと、このような開催にしています。
　基本は、地区公民館で、調理ボランティアさんがお弁当をつくり、各開催会場に運んでお配りします。お弁当が届くまでの時間、町区の公民館を開放

させてもらい、音楽を演奏する人がいたり、手品をする人がいたり、みんなで遊んだり、本を読んだり、おもちゃの貸出をしたりして過ごします。ボランティアもまだ固定化はしていないので、食堂に参加していただいた方が、今度は、今度は参加してみたいと来てくださったり、その地区にお住いの保護者さんにお声掛をかけてみたりしています。
又、資金がないとできないので、お弁当は大人の方には 300 円のご負担をお願いして、活動費に当てさせてもらっています。

おもかげ　ちいき食堂運営委員会　　代表　萩野…